

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

中学校 第1学年 「数学（東京書籍）」

(★)は移行内容

98時間(70%)

週	指導事項	単元名	小単元名	時間数	留意点			
1 2 3 4 5	A(1) ア(ア)(イ) ウ イ(ア)(イ)	1. 正負の数	整数の性質 (★)	1	・自然数を素数の積で表すことにより、算数で学習した整数の性質について捉え直す。			
			1-①符号のついた数	2	・具体的な事象を考察し、正負の数を用いて反対の方向や性質を表せることを扱う。 ・(P.13)の用語は1-①で扱う。			
			1-②数の大小	1				
			基本の問題		・家庭学習を利用する。			
			2-①加法	3	・符号が同じ2数の加法を基に、符号が異なる場合の計算の仕方を考え、説明する活動を行う。			
			2-②減法	2	・加法を基に減法の計算の方法を扱う。			
			2-③加法と減法の混じった計算	1				
			基本の問題		・2-①～③の授業にて練習問題として扱う。			
			3-①乗法	4	・加法の学習を基に、乗法の計算の仕方を考察する。			
			3-②除法	2	・除法は乗法の逆の演算であることを用いて、除法の計算方法を端的に捉える。			
			3-③四則の混じった計算	1	・小学校で学習した四則計算の意味を基に、計算の手順を扱う。			
			3-④数の範囲と四則	1				
			基本の問題	1	・これまで学習した計算の定着度を授業または家庭学習で確認する。			
			4-①正負の数の利用	1	・負の数も用いて表すことで、増減を明確に示し、効率よく平均を求められることを扱う。			
21時間			章の問題、単元末テスト等	1				
6 7 8	A(2) ア(ア)(イ) ウ(エ) イ(ア)	2. 文字と式	1-①文字の使用	1	・小学校での学習を基に、とびらと合わせて扱う。			
			1-②文字を使った式の表し方	2				
			1-③代入と式の値	1	・文字に具体的な数を代入することで、文字式の一般性を扱い、文字への抵抗感を和らげる。			
			基本の問題		・家庭学習を利用する。			
			2-①1次式の計算	4				
			基本の問題		・2-①の練習問題として、授業や家庭学習で扱う。			
			3-①数量の表し方	3				
			3-②関係の表し方	2	・等式と不等式を扱い、等号が計算の過程だけでなく、等しい関係を表すことを扱う。			
			基本の問題		・家庭学習を利用する。			
			14時間			章の問題、単元末テスト等	1	
9 10	A(3) ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	3. 方程式	1-①方程式とその解	3	・とびらと合わせて扱う。 ・等式の性質を基に、もとの方程式と同値な方程式を段階的に導いて解を求めることを扱う。			
			1-②方程式の解き方	1				
			1-③いろいろな方程式	2	・具体的な問題の解決に必要な方程式を扱う。			
			基本の問題		・1-①～③の練習問題として、授業または家庭学習で利用する。			
			2-①1次方程式の利用	3				
			2-②比例式の利用	1				
			基本の問題		・家庭学習を利用する。			
			11時間			章の問題、単元末テスト等	1	
			11 12 13 14	C(1) ア(ア)(イ) ウ(エ) イ(ア)(イ)	4. 比例と反比例	1-①関数	2	・とびらを合わせて扱う。表や式を手立てに関数関係の変化や対応を調べる。
						2-①比例する量	3	
2-②比例のグラフ	3	・表、式、グラフを関連づけながら比例定数aの意味を扱う。						
2-③比例の表、式、グラフ								
基本の問題		・家庭学習を利用する。						
3-①反比例する量	2	・比例と比較しながら反比例の変化や対応の特徴、式を扱う。						
3-②反比例のグラフ	3	・電卓を利用して計算の能率化を図るなど、グラフをかき活動を工夫して行う。 ・比例と比較しながら反比例の式を扱う。						
3-③反比例の表、式、グラフ								
基本の問題		・家庭学習を利用する。						
4-①比例と反比例の利用	2							
16時間			章の問題、単元末テスト等	1				

15 16	B(1) ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (ウ) B(2) ア(イ)	5. 平面図形	1-①図形の移動	4	・教科書や学習プリントを活用し、図形をかいたり調べたりする活動を工夫する。 ・(P. 149) 図形の移動を具体的な場面で活用することを扱う。	
			基本の問題		・家庭学習を利用する。	
			2-①作図のしかた	1		
			2-②基本の作図	4	・(P. 160) 直線上の1点を通る垂線の作図方法を見だし、作図できる理由を説明する活動を行う。	
			2-③いろいろな作図	1		
			基本の問題		・2-①②の練習問題として、授業や家庭学習で取り組む。	
			3-①おうぎ形	2	・ π や比例の考えを用いて扇形の弧の長さや面積を扱う。	
			基本の問題			
			1 3 時間	章の問題、単元末テスト等	1	
			17 18 19	B(2) ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	6. 空間図形	1-①いろいろな立体
2-①直線や平面の位置関係	3	・直線や平面の位置関係を捉える観察や操作、実験などの活動を扱う。				
2-②面の動き	1					
2-③立体の展開図	2	・展開図をかく活動は家庭学習を利用する。				
2-④立体の投影図	1	・投影図と見取図を関連付けながら空間図形を平面上に表現する活動を行う。				
基本の問題		・家庭学習を利用する。				
3-①体積	2	・柱体と錐体を関連づけながら体積を扱う。				
3-②表面積	1					
3-③球の体積と表面積	1	・柱体と錐体の体積の関係と関連づけながら球の体積を扱う。				
基本の問題		・3-①～③の練習問題として、授業や家庭学習で取り組む。				
1 4 時間	章の問題、単元末テスト等	1				
20 21	D(1) ア(ア)(イ) イ(ア) D(2) ア(ア) イ(ア) 小6年D(1) ア(ア) イ(ア)	7. 資料の分析と活用	1-①度数の分布	2		
			累積度数 (★)	1	・累積度数の必要性和意味を扱う。	
			1-②範囲と代表値 (★)	2	・量的データの分布の中心や散らばりを捉え、問題の結論を判断することを扱う。	
			基本の問題			
			2-①資料の活用	1	※時間数の精選方法参照。	
			3-①近似値と有効数字 (★)	0	・3年生へ移行。	
			基本の問題 (★)	0		
			ことからの起こりやすさ (★)	2	・多数回試行の確率を扱い、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、表現する。	
			9 時間	章の問題、単元末テスト等	1	

※時間数の精選方法 (例)

○授業中の問題を精選する。

- ・生徒の実態に応じて授業中に扱う教科書の練習問題を精選し、残りは家庭学習の課題にするなど、単元における学習の工夫を図ります。
- ・例えば、定着度が低い分数の計算は授業中に扱い、整数の問題は家庭学習を利用することが考えられます。家庭学習部分につまずきが見られた生徒に対しては、解法やポイントをまとめたプリントを配布する、小単元の末に余剰時数を使って補充の時間を設定する、校内で連携した個別支援を実施するなどの対応をとることが考えられます。

○指導内容を基に、扱う活動や解法を精選する。

- ・複数の解法がある問題については、本時のねらいの達成に必要な解法を精選して扱うことが大切です。
- ・例えば、1次方程式の利用では、方程式を解く場面で複数の解き方があっても1つのみ扱ったり、板書のみ示したりして、解の吟味に時間をかけることが考えられます。
- ・逆に、例えば、P. 219ヒストグラムや他のデータを活用して集団の傾向を読み取る部分では、多様な考えを扱いながら自他の意見を批判的に考察することで、よりよい判断をしようとする態度を養います。

○指導と評価の一体化を重視した継続的な指導を行う。

- ・数学は既習を活用しながら学習を進めるため、学習内容を復習することができます。授業中の問題練習量が不足する分、ノート指導の充実を通じて、どこで学習したのかを明確に示し、学び直しの機会を意図的に設定することが大切です。
- ・限られた時間の中で生徒の学習状況を適切に見取り、指導と評価の一体化が図られた授業を通じて基礎基本の定着を図ります。

●平成29年度告示の指導要領解説数学編を基に、資料を作成しています。